

仮番号「書2―115」

便箋

謹啓入梅の候先生には愈々御健祥の趣にて
なによりと存じます

扱て過日碌山美術館開館式の折御願申し
上げました通り来る八月一日より五日間例年
の如く夏季絵画講習会を開くように決
定いたしましたので、ご多忙中誠に恐れ入
りますが是非々々御指導願いたく御願
い申し上げます。

日程その他例年の如く左記要綱に従つ
て行いますので先生の御都合のよろし
い日に御指導頂きたく存じます、
御予定が定まりましたら御手数でも
御一報頂きたく存じます、

記

一、期日 八月一日―五日（五日間）

二、会場 長野市城山小学校

三、内容 人体の描写 石膏像の素描

美術についての先生の御話（昼食時）

四、モデル 裸女（交渉中） 着衣

五、会員 約四〇名

六、日程 8.00 8.30 1200 130 5.00

―受付―実習―昼食―実習―

○先生の宿舎は犀北館に御願いたします

○会員の動き

増田仁義氏四月一日より上水内郡豊野町西小学校
長に転出（上水内郡の中心小学校）

上原正三氏昨年に引続き須坂教員保養所
に入所中今秋頃出所出来る予定

松橋直人氏今春より気管支肺炎にて只今
自宅療養中 その他会員健在それ〴〵

精進しています、私のところでは妻が肺結
核になり昨秋より自宅療養をしていました
が空洞が取れませんでしたので来る二十六日日赤
長野病院にて切除手術を行うことになりて
只今入院準備中であります、無事に手術
が出来ることを念じています、

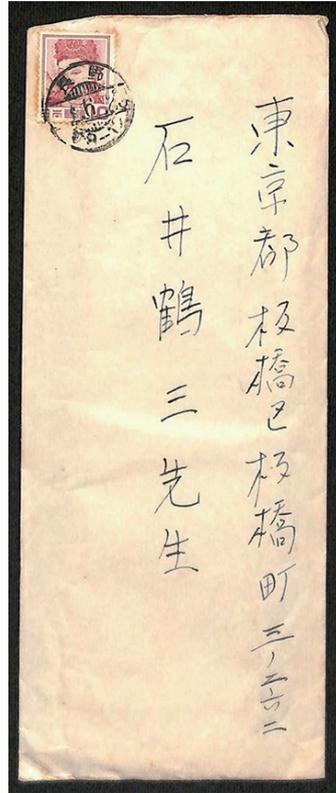
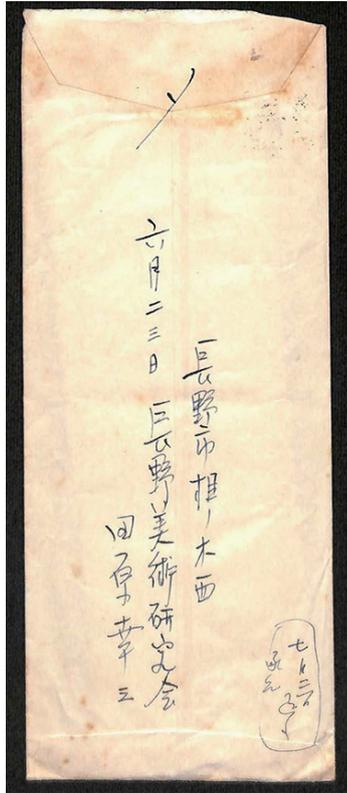
いつも先生に御注意を頂くのですが病人が
多いので困ります、何とか皆健康になるよう
努めたいと思います、

右 御願申し上げます

昭和三十三年六月二十三日

長野美術研究会 田原幸三

石井鶴三先生



謹啓 入梅の候 先生は日毎愈々増健祥の趣はマ
 なるより有りませ

扱マ得る 探出美術館 南館 美の折 信野の甲一
 とし ましを 通る 来る 八月 下より 五日 向 例年
 の如く 自ら 来給 出 講習 会を 申し 下るに 決
 定し せし ませ ちの 寄る 物申 誠口 吹 入
 事 あり 是 水々々 情 持 導 野 いたく 増 勢
 い 申し 下る 幸 甚 甚

日 程 々々 他 例 年の 如く 左 記 要 切 口 決 然

只々入院中の中より申す。三つに午時
 に出発する事を入るじまに申す。
 どの先生に情状を申す所は、病人が
 どの先生の御方ですか。何かは、健康に
 どうかと申す。

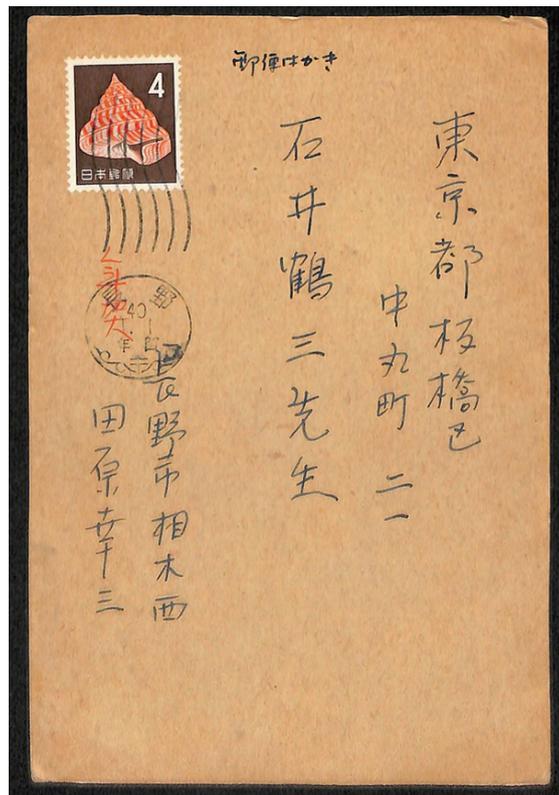
右 吉野 申す。

昭和三十三年六月二十三日
 吉野美術研究会 田中 啓二

石井鶴三先生

仮番号「書4-509」

年賀状 1965年



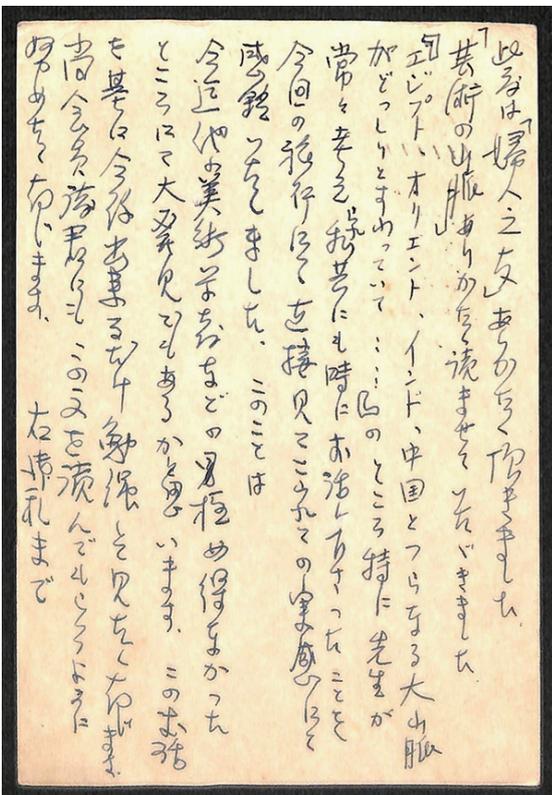
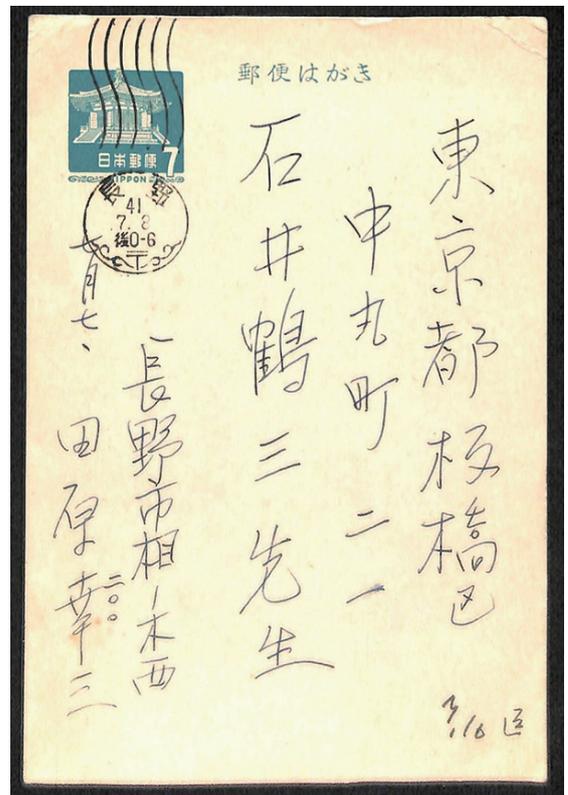
葉書



仮番号「書4-510」

葉書

此度は「婦人之友」ありがとうございました
 「芸術の山脈」ありがとうございました
 『エジプト、オリエント、インド、中国とつらなる大山脈
 がどっしりとすわっていて……』のところ特に先生が
 常々考えられ私共にも時にお話し下さったことを
 今回の旅行にて直接見てこられての実感にて
 感銘いたしました、このことは
 今迄他の美術学者などの見極め得なかつた
 ところにて大発見でもあるかと思ひます、このお話
 を基に今後出来るだけ勉強して見たく存じます
 尚会員諸君にもこの文を読んでもらうように
 努めたく存じます、右御礼まで



仮番号「書4-511」

冠省

昨夜町田則義氏が御見えになり

次の二作を御持ちになりました、

御知せいたします。

1、昭和二五年長野師範にて描かれたもので

脚の短いモデルの画 「裸女立像」

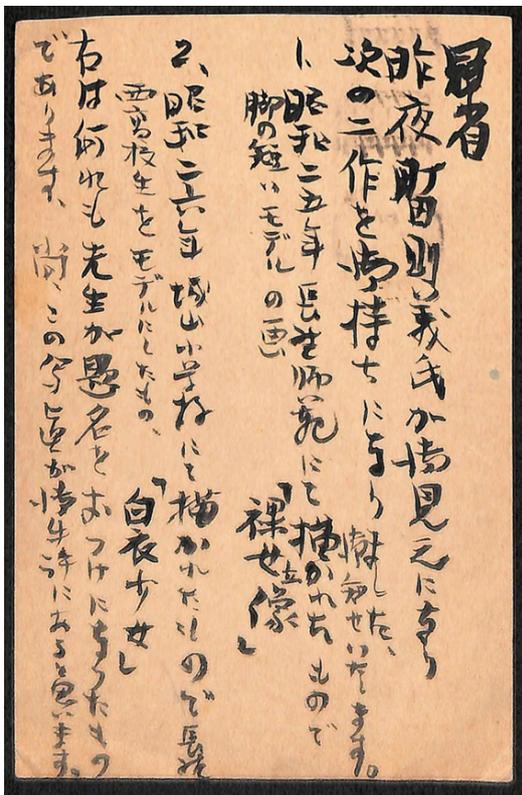
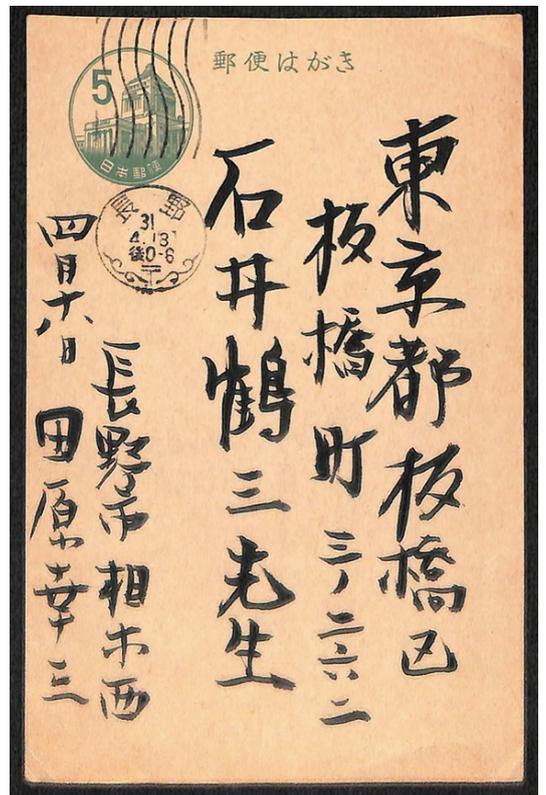
2、昭和二六年城山小学校にて描かれたもので長野

西高校生をモデルにしたもの、「白衣少女」

右は何れも先生が題名をおつけになったもの

であります、尚、この写真が御手許にあると思います。

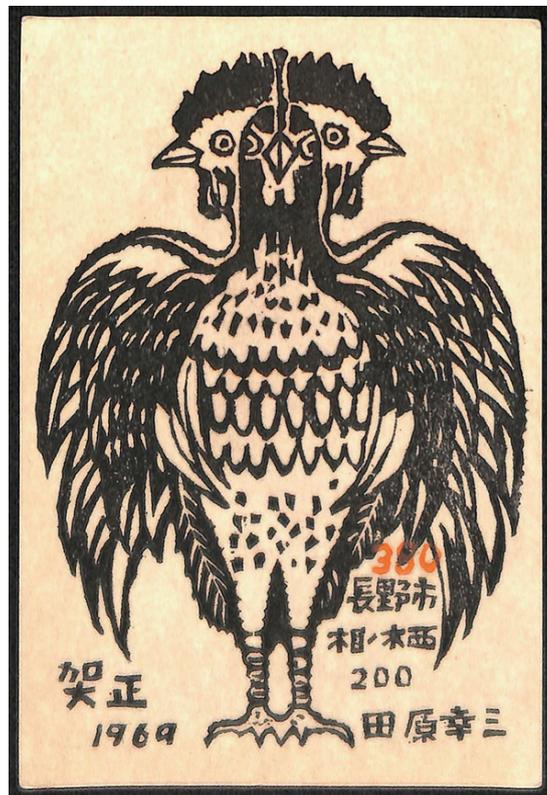
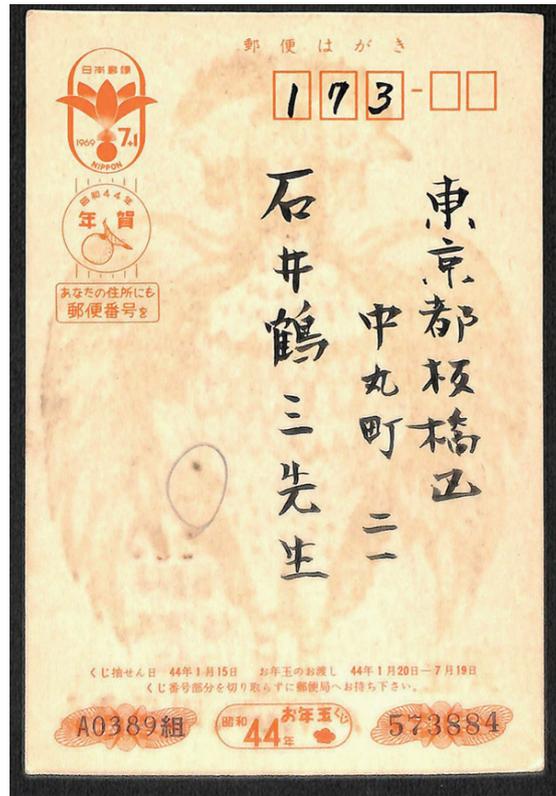
葉書



仮番号「書4-512」

年賀状 1969年

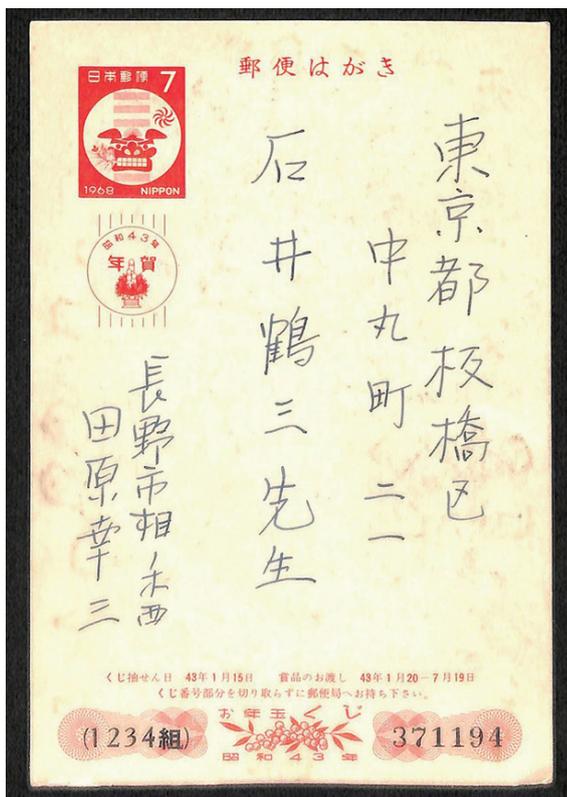
葉書



仮番号「書4-513」

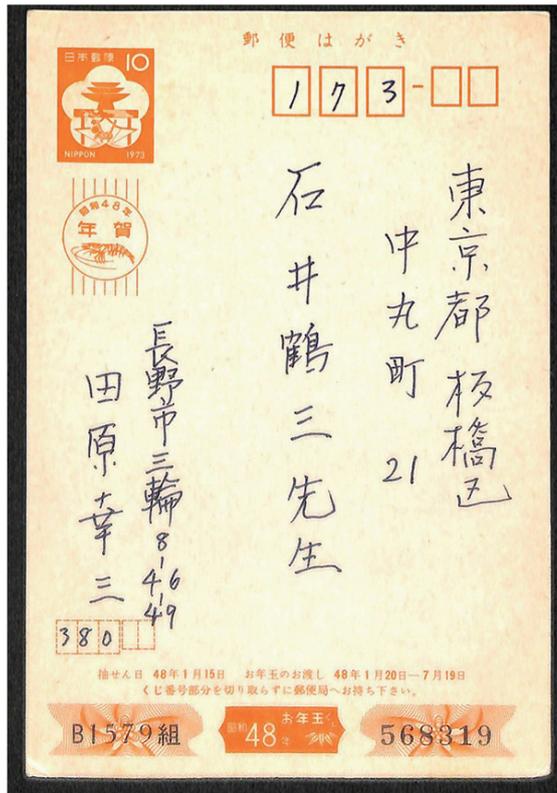
年賀状 1968年

葉書

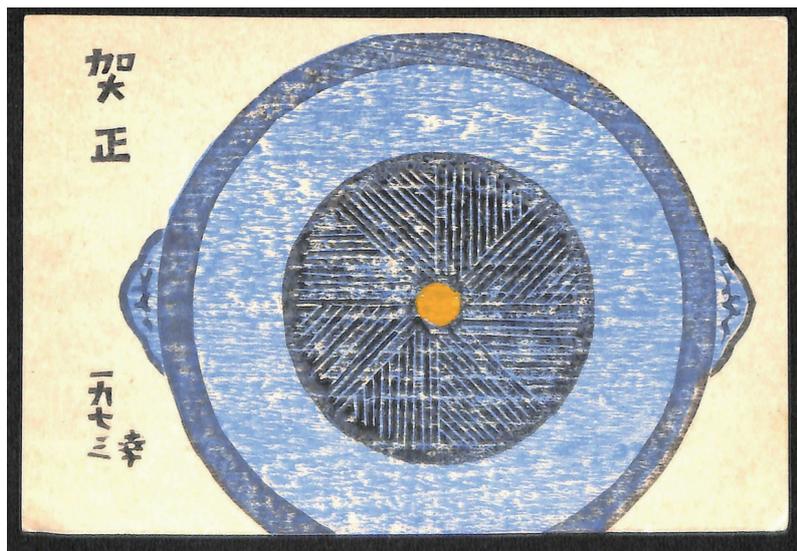


仮番号「書4-514」

年賀状 1973年

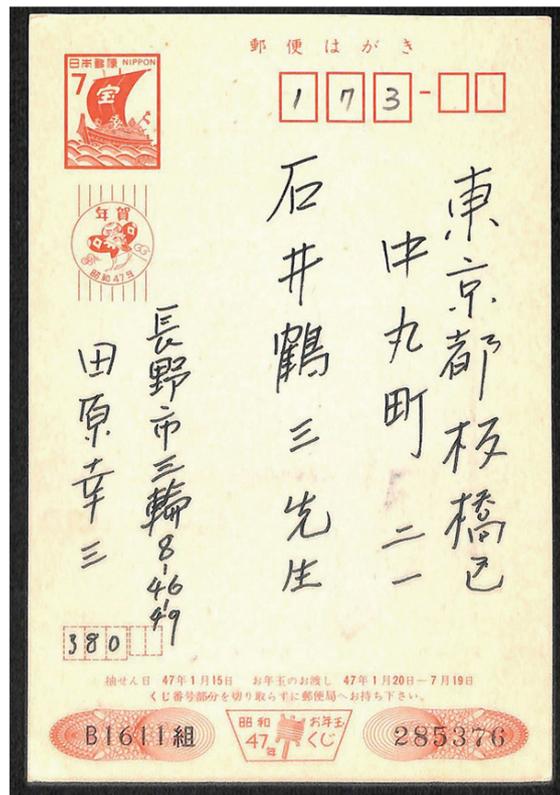


葉書

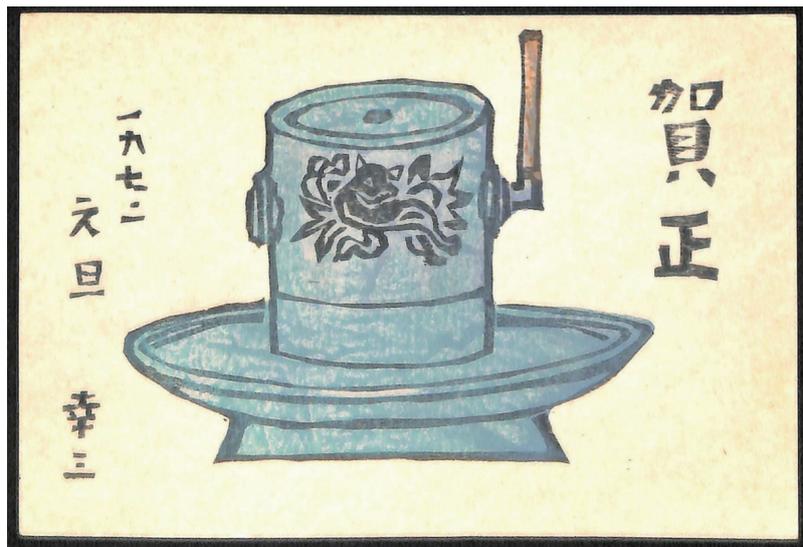


仮番号「書4-515」

年賀状 1972年



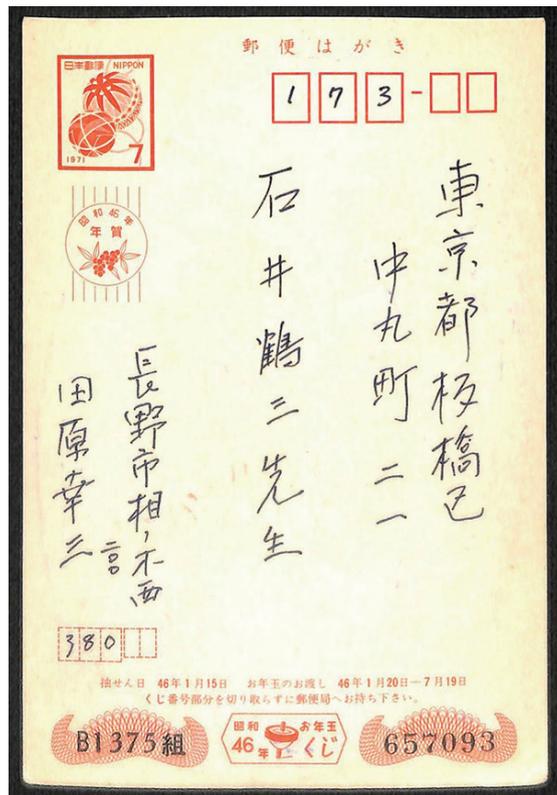
葉書



仮番号「書4-516」

年賀状 1971年

葉書



拝啓 新緑の好季となりました、先生にはヨーロッパの旅も収穫多いよい御旅行を終了されましたこと、存じます、いづれ御面接の折御感想などうけたまわりたく存じます、さて御帰朝早々に御多用のところ恐縮に存じますが、先に御願いたしました展覧会のことについて御手数でも御配慮頂きたく存じます、

一、展覧会について

名称 石井鶴三先生絵画講習会三十周年記念展覧会
 期日 六月十八日、十九日、二十日 午前九時～午後五時
 会場 県立長野図書館

主催 長野県教育委員会 信濃教育会 長野市教育会
 長野美術研究会

後援 長野市教育委員会 信濃毎日新聞社 信越放送

内容 石井先生作絵画約三十(二十数)点 彫刻五(三三)点

会員作 絵画約八十点 彫刻数点

入場 無料

二、上田から御借りする彫刻五(三三)点の題名を御願いたします、上田には六月十二日にお借りに上がります

三、絵画の目録(別紙)を同封いたしました、私のお預りしている作以外先生の御手紙にあつて、御借り出来るものについて、年度題名を御願いたします

四、目録の中に先生のお言葉を載せて頂きたく存じますので、原稿用紙四百字詰一枚か二枚以内にて

適当なお言葉を御願いたします

五、先生宅に絵をお借りに上る日は六月五日(日曜日)

南島金平、水野直の二人が上がりますが、御都合がある場合は他日(日曜日)を御教示頂けば、その日に上ります。

○ 右の内 二、三、四項については五月二十五日までに御願いたします、

○ 先生にきて頂きたい日時

六月十九日午後一時頃●より午後七時半頃まで

一時～三時展覧会を見て頂く

三時～五時先生を囲んで座談会 五時～七時半記念パーティー

一泊して頂いて二十日に御帰り頂きたく存じます、

以上誠に恐縮に存じますがよろしく御願いたします、

五月十九日

長野美術研究会 田原幸三

石井鶴三 先生

絵画 題名 制作年度 その他 赤丸印 田原預りのもの。
 昭和

○12 ビーナス跪坐像 木炭紙全 木炭

○12 老婆 // //

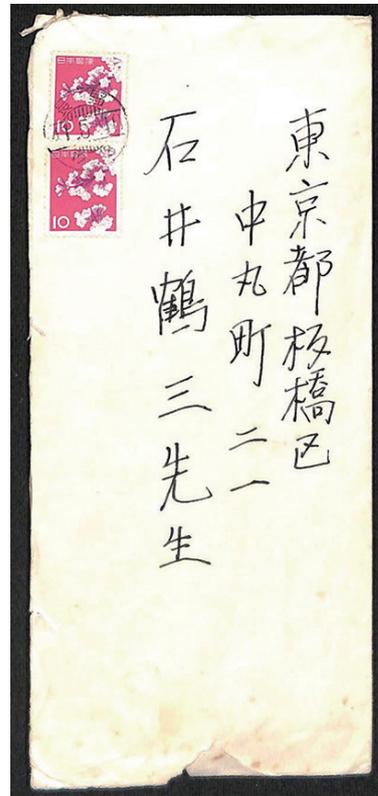
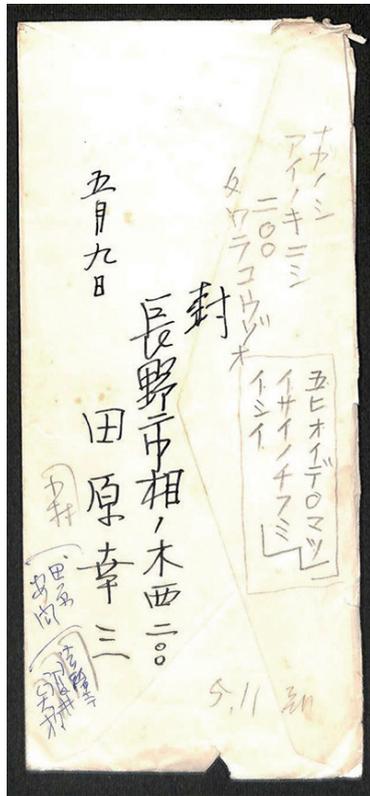
○13 婦女像 P 12 油

○13 ラオーコン像 木炭紙全 木炭

○14 半裸女倚像 P 12 油

○15 裸女習作 P 12 油

33	32	31	30	○29	○29	28	27	26	○26	○25	○24	○24	昭和	○23	○22	○21	○18	○17	○16
(少女)	()	(少女 着衣)	" 裸女 (2)(1)	窓辺の少女	裸女倚像	(裸女立像)	(裸女倚像)	(裸女)	白衣少女	裸女立像	少女	少女シミーズ		少女	少女	婦人像	白衣坐女	黒衣少女	裸女半身
P 12			" 四ツ切	" "	" "	半切		P 10	" "	" "	" "	半切		P 10	八ツ切	四ツ切	P 8	P 12	P 12
油)	()	油)	" "	" "	水彩	水彩)	油)	油)	" "	" "	" "	水彩		油	コレオン	水彩	油	油	油



拝啓 新録の好意とを承りました。先生は早稲田の
 旅も收獲よい、帰行を終了されましたこと、なほ
 ます、いづれ御面接の折、情勢如何によい機会を
 たくわえます。さて帰郷朝、早稲田にて帰用のこと
 恐縮に存じますか。先に帰郷いたしました。展覧会の
 ことは、帰手教へも、帰郷へも、たくわえます。

一、展覧会について

名称	石井健三先生絵画講習会十周年記念展覧会
期日	六月十八日、十九日、二十日、二十一日、二十二日、午後五時
会場	埼玉 埼玉図書館
主催	長野県教育委員会 信濃教育会 上野市教育会 長野美術研究会

後援 長野県教育委員会 信濃毎日新聞社 信越放送
 内容 石井先生 絵画の精華 彫刻 三
 会員作 絵画約八十点 彫刻数点

入場 無料

二、上田から帰郷する彫刻 三、題名を帰郷いたします。
 上田は六月十二日に帰郷に上りました。

三、絵画の目録(別紙)を同封いたしました。私のお礼う
 し、いづれ以外先生の帰手譯におつて、帰借り出来
 るのにつて、毎巻題名を帰報いたします。

四、目録の中には先生のお言葉、をりせて頂きたい
 ますので、原稿用紙四半字活一枚か二枚以内にて
 簡潔なお言葉を帰報いたします。

五. 先生宅に候とお借りには六月五日(日曜日)
 南島屋、水野直の二人が上りまうか、持都合か
 る。場合は他日(日曜日)を帰る予定は、その日
 に上ります。

〇 右の如く、三、四項については五月二十五日までに帰
 候。いよいよ。

〇 先生にきて頂きたい日時

六月十九日午後一時迄、午後七時頃まで
三時、五時、先生を困らせ候
 三時、五時、先生を困らせ候。五時、七時、記念の
 一泊して頂いて二日に帰る予定です。

以上誠に恐縮ながらお聞き申す。いよいよ。

五月十九日
 長岡美術研究会
 田中 幸三

石井 鶴三 先生

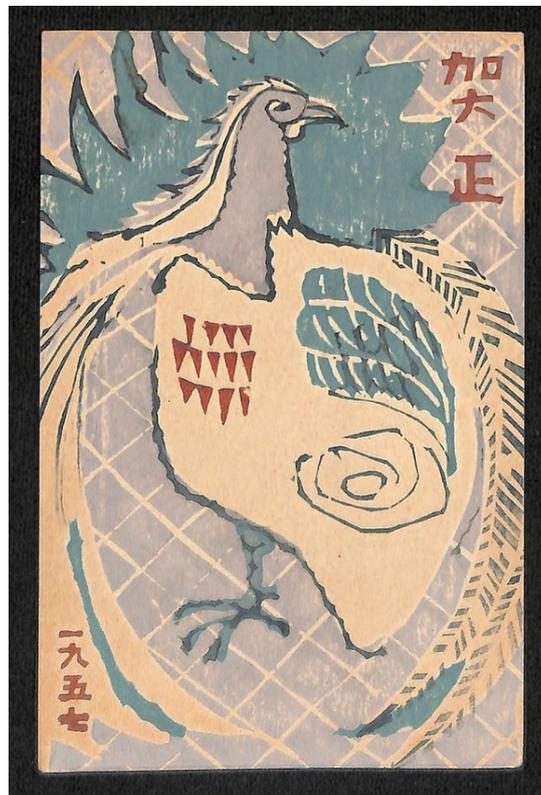
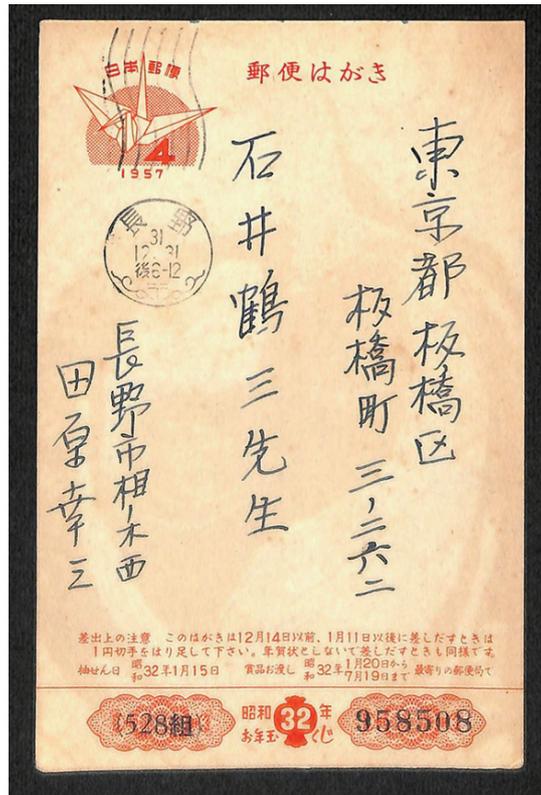
絵画 題名 制作年度 所在地 赤丸印 田原松ノワケ

昭和	題名	制作年度	所在地	赤丸印	田原松ノワケ
○	12 ビーナス踏坐像	機軸全機		○	24 少女ニーズ 半印 水彩
○	12 老婆	〃	〃	○	24 少女 〃 〃
○	13 婦女像	P12 油		○	25 裸女立像 〃 〃
○	13 ラーコ像	機軸全機		○	26 白衣少女 〃 〃
○	14 半裸女倚像	P12 油		○	26 (裸女 P10 油)
○	15 裸女習作	P12 油		○	27 (裸女倚像 油)
○	16 裸女半身	P12 油		○	28 (裸女立像 半印 水彩)
○	17 黒衣少女	P12 油		○	29 婦女倚像 〃 水彩
○	18 白衣坐女	P8 油		○	29 窓辺の少女 〃 〃
○	21 婦人像	四ヶ印 水彩		○	30 (婦女 1) 四ヶ印 〃
○	22 少女	一ヶ印 コピー		○	31 (少女 着衣 三曲)
○	23 少女	P10 油		○	32 ()
				○	33 (少女 P12 三曲)

仮番号「書6-388」

年賀状 1957年

葉書



仮番号「書10―444」

便箋

謹啓 梅雨の候先生には愈々御清祥

の御趣御慶び申し上げます、

扨て昨夏以来御無沙汰申し上げます、

失礼いたして居りました、

今年も例年にならい夏季絵

画講習会を左記要領に従って

開催いたすことにいたしました、

先生には誠に御多用中のところ

恐縮に存じますがまげて御指

導賜りたく御願ひ申し上げます

今年は認定講習その他の情勢

より期日を締め会員数も三十名

程度の予定にて確かりした研究を

いたしたいと会員一同元氣を出して月

々の研究会を続けて居ります

今年も新会員として市内加茂

小学校の石間博、安茂里中学校

岡田豊安、南部中学校原山広

の三氏を迎えることになりました。

私は昨秋碌山展の後程に胃

潰瘍を患い二箇月程療養いた

しましたがその後どうやら勤務

出来る状態にありますので用心

長い間全快を怠って居りました

ものですから今になって急に

なをしたくも思うようにいかない

らしく日々の生活を気附って

やっています。随分御心配を御か

けいたしました。右のような次第

でありますので御休心下さい

記

一、夏季絵画講習会

期日八月一日―五日

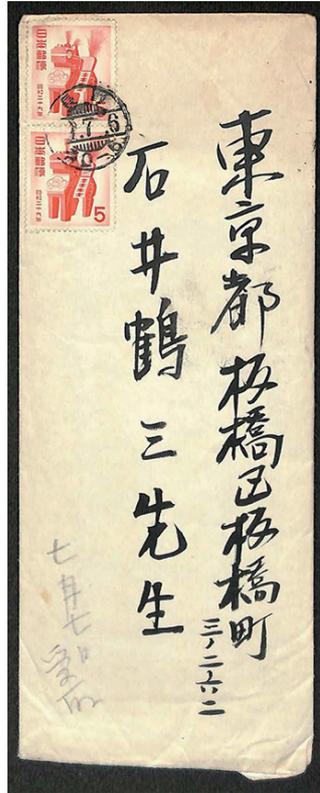
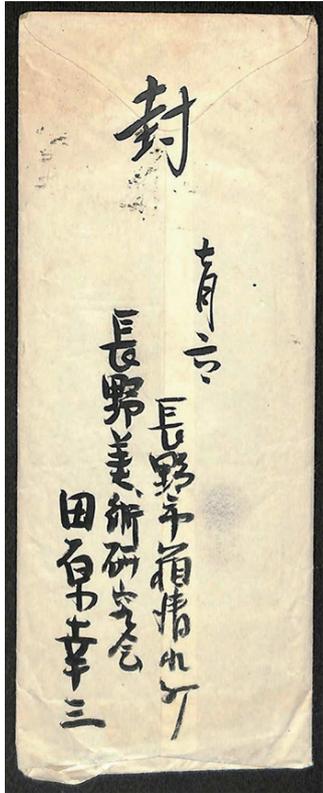
会場市内城山小学校

日課 人物描写及び石膏素描

右御願ひ申し上げます

七月六日 田原幸三

石井鶴三先生



先生には既に書きたる田中のことろ
 瑞瑞と上り下さり加まらぬ情持
 道す器りたる情願申上り
 今平は認定備分その他情勢
 かり期日を指め念員数も三十名
 程の予定より破りした研究を

謹啓 梅子の候先生には愈々情清祥
 の情趣希度び申上りまされ、
 拙々昨夏以来情無竹出申上り
 筆乳のたすを長うまされ、
 今平は例年にならぬ百多筆の松
 更満の念を古記要院に從う
 由催りたることをいつてまされ、

いたしむと念員一箇之をいとおと月
 々の研文念とて持ててありませし
 念平は新念員とて市内加茂
 小学校の石井博、宇原里中子孫
 岡田宣安、南平中子孫、原山広
 の三氏を仰ぐ。之をいとなりませし。

和名昭秋珠山展の後軽い胃
 腸痛を患ひ、二内月程療養を
 しましむかその後、どうやら勤続
 出する状態にありませしので用ひ
 した、勤めを戻りませし。
 長い間念員をいって居りませし。

此のころから念にならうと念
 たりをいしむとも思ふよきにいか
 らしく日々生活をいづれ
 やうにせよ。随分佛心配を
 けいせしませし。かたよきを
 せりませしので、佛心配をい
 たり。

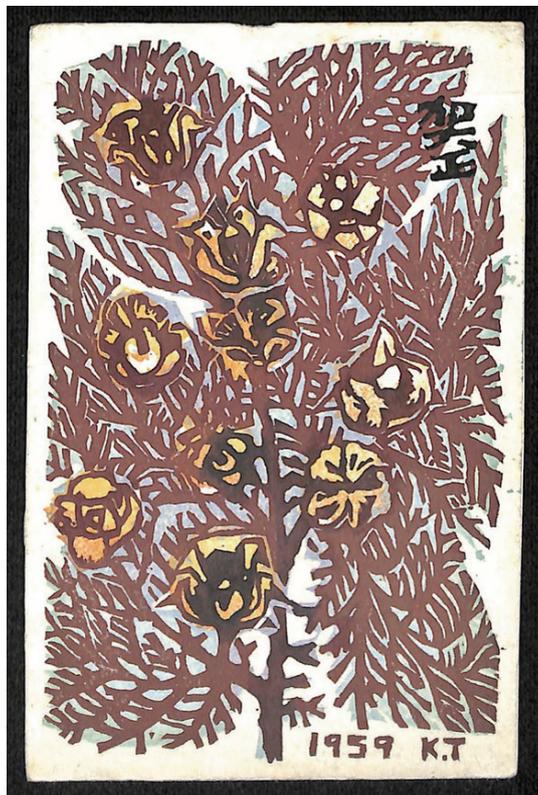
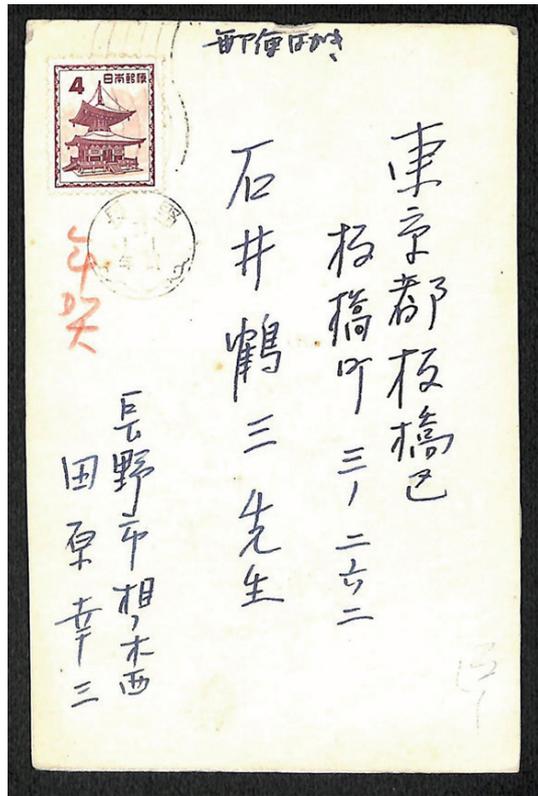
記

一、念員会
 期、八月一日―五日
 念員市内城山小学校
 日課、念員、甲、乙、丙、丁、石、高、木、指
 石井鶴三先生

仮番号「書10-449」

年賀状 1959年

葉書



仮番号「書12-59」

葉書

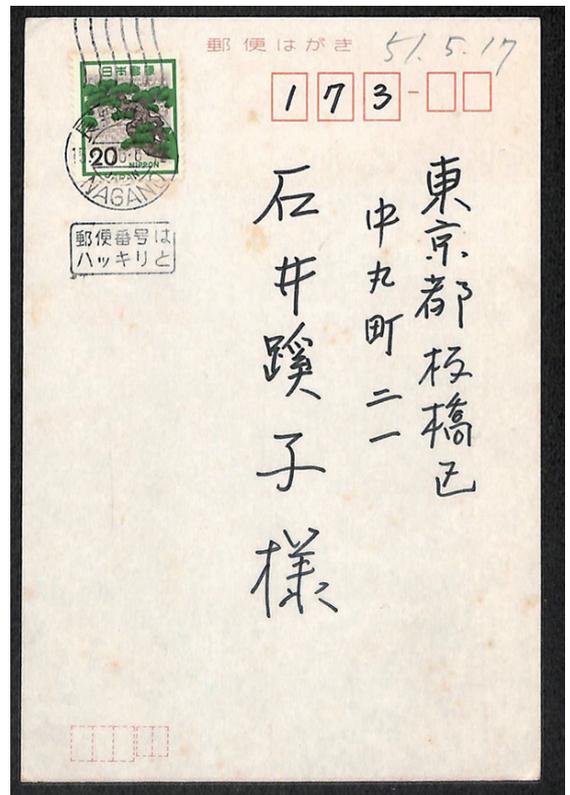
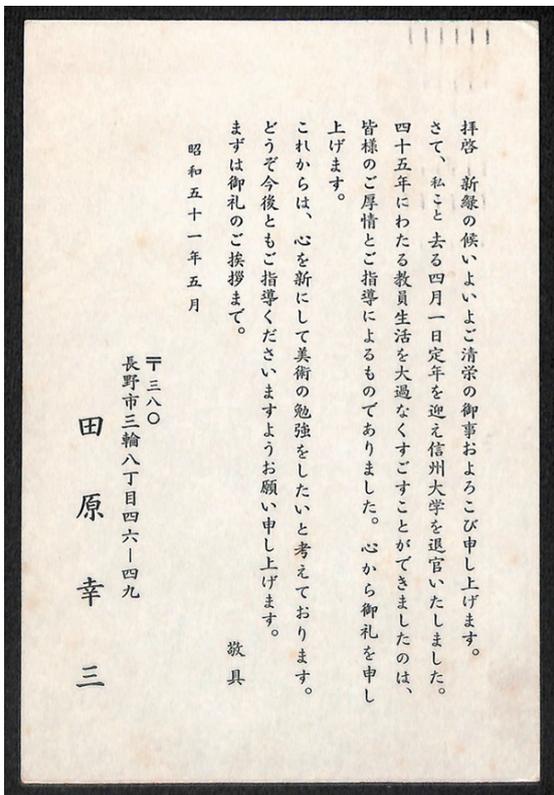
拝啓 新緑の候いよいよ清栄の御事よろこび申し上げます。
 さて、私こと去る四月一日定年を迎え信州大学を退官いたしました。
 四十五年にわたる教員生活を大過なくすごすことができましたの
 は、
 皆様のご厚情とご指導によるものであります。心から御礼を申し
 上げます。
 これからは、心を新にして美術の勉強をしたいと考えております。
 どうぞ今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。
 まずは御礼のご挨拶まで。
 敬具

昭和五十一年五月

〒三八〇

長野市三輪八丁目四六一四九

田原 幸 三



仮番号「書13—1196」

便箋

拝復 御芳書ありがたくいただきました
先生にはいよいよ御健祥の趣なにより
と御喜び申し上げます 御蔭様
にて私も最近元気に勤めており
ますので御休心下さい
先生の御作はさきに信濃教育
表紙溪流を拝見いたしましたそ
の力強さともりあがるような大き
さに心打たれました私にはよくわか

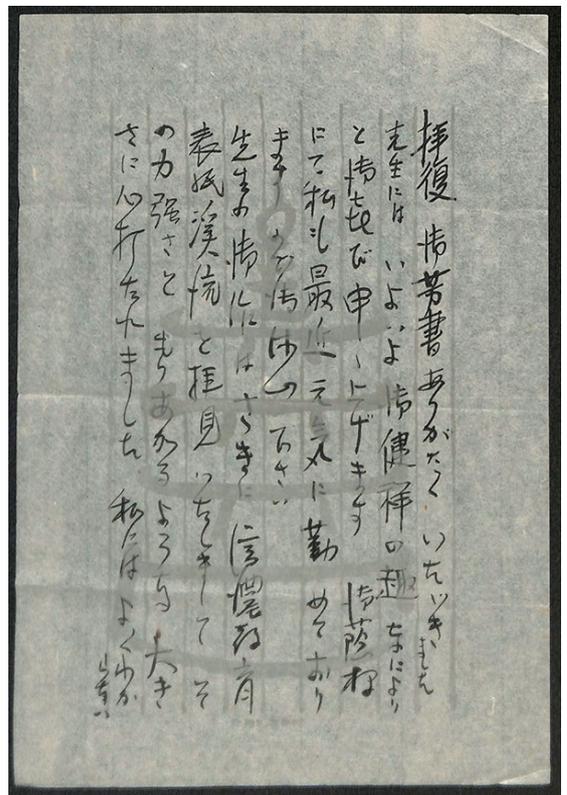
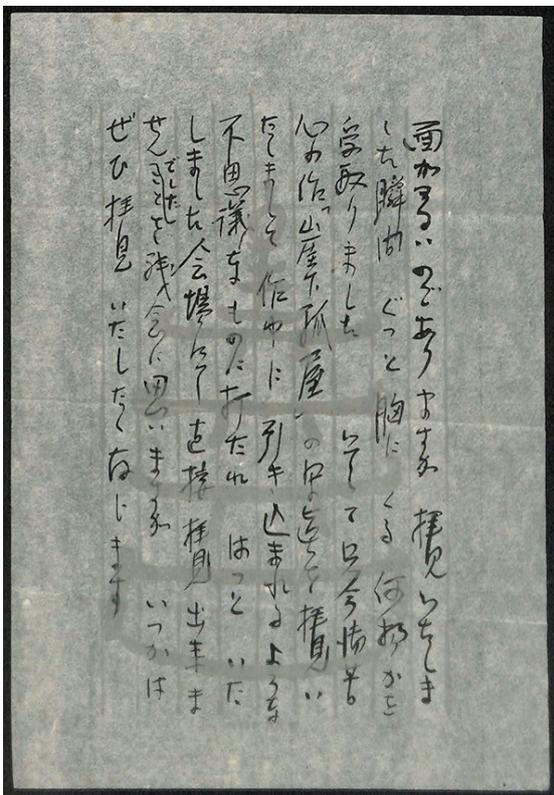
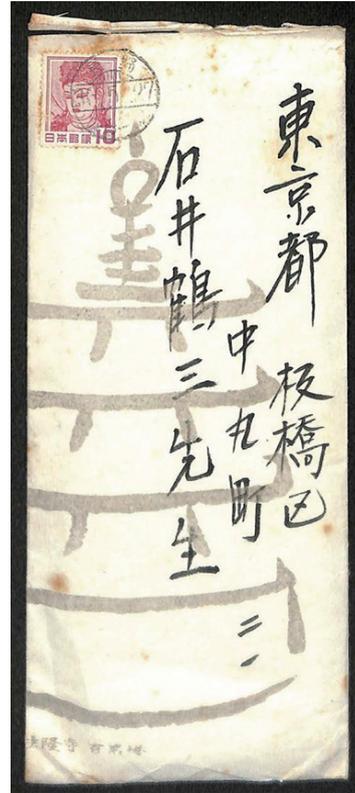
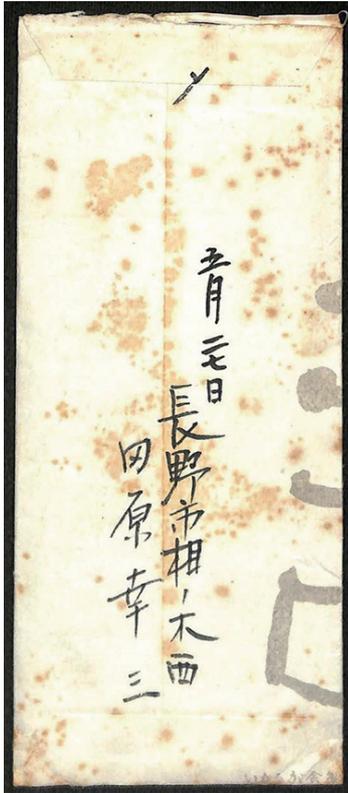
らない

面が多いのでありますが拝見いたしま
した瞬間ぐつと胸にくる何物かを
受取りました そして只今御苦
心の作「崖下孤屋」の写真を拝見い
たしまして作中に引き込まれるような
不思議なものに打たれはつといた
しました会場にて直接拝見出来ま
せん（でした）ことを残念に思いますがいつかは
ぜひ拝見いたしたく存じます
当方只今新緑あざやかにて特に
戸隠飯綱高原の白樺落葉松
などの新緑は目をうばう程であり
ます私はこゝ数回飯綱原を
散策いたし以前に増してその

美しさに打たれ同僚等にも勧め
ているような次第であります
御地からは一寸遠い感はある
ますが御都合御つきでしたら
御案内（案内される方かもしれませんが）
申し上げます
去る四月二十二日には碌山館にて中原
悌二郎作品十点到接しました
以前カフカス人像婦人の面の二作
を見ておりましたが今回十作を年
代順に見て偉大さに感心いたし
ました、その折三木多聞氏笹村
草家人氏の講演があり中原悌
二郎について御き、いたしました
先生がかつて柳町学校にて彫刻
講習会の折講演中たまたま
中原悌二郎にふれて涙にむせ
られたことを思い起し、先生の
御心境が際しられるように思われます
私共も及ばずながら精々勉強を続
けたいと存じます
右御返にかえての雑感御判読下されま
すれば幸甚に存じます

五月二十七日

田原幸三



市子(一) 幸内(二) 幸外(三) 幸小(四) 幸大(五)
 申(六) 申(七) 申(八) 申(九) 申(十)
 去(十一) 去(十二) 去(十三) 去(十四) 去(十五)
 以(十六) 以(十七) 以(十八) 以(十九) 以(二十)
 代(二十一) 代(二十二) 代(二十三) 代(二十四) 代(二十五)
 幸(二十六) 幸(二十七) 幸(二十八) 幸(二十九) 幸(三十)

当(一) 方(二) 只(三) 今(四) 新(五) 條(六) 幸(七) 小(八) 幸(九) 大(十)
 申(十一) 申(十二) 申(十三) 申(十四) 申(十五)
 去(十六) 去(十七) 去(十八) 去(十九) 去(二十)
 以(二十一) 以(二十二) 以(二十三) 以(二十四) 以(二十五)
 代(二十六) 代(二十七) 代(二十八) 代(二十九) 代(三十)

大(一) 幸(二) 甚(三) 名(四) 市(五) 子(六)
 申(七) 申(八) 申(九) 申(十)
 去(十一) 去(十二) 去(十三) 去(十四) 去(十五)
 以(十六) 以(十七) 以(十八) 以(十九) 以(二十)
 代(二十一) 代(二十二) 代(二十三) 代(二十四) 代(二十五)
 幸(二十六) 幸(二十七) 幸(二十八) 幸(二十九) 幸(三十)

三(一) 市(二) 子(三) 幸(四) 小(五) 幸(六) 大(七)
 申(八) 申(九) 申(十) 申(十一) 申(十二)
 去(十三) 去(十四) 去(十五) 去(十六) 去(十七)
 以(十八) 以(十九) 以(二十) 以(二十一) 以(二十二)
 代(二十三) 代(二十四) 代(二十五) 代(二十六) 代(二十七)

便箋

拝復 御芳書ありがたく拝見いたしました
先生の御言葉の如く老若共に勉強第一
に存じます。

今日九日日曜日に城山小学校にて例の絵画
研究会を行い尚今夏の研究会の件
について相談いたしましたその席上梅野
さんの受賞されたことと先生の御言葉を
皆さんに御話いたしました一同いよいよ気持
を新にして勉強する覚悟をしたわけで
あります、

そのせいか会員は七月二六日より八月五日
まで城山小学校にて着衣人物の描写を
中心に勉強することに決めました
一部の会員は彫塑を試みたい希望にて
一室彫塑室を設けることにいたしました。
参加会員は二十名以下と思われ
ます
が皆それぞれ自分の勉強をしっかりとやっ
てくれるものと思います

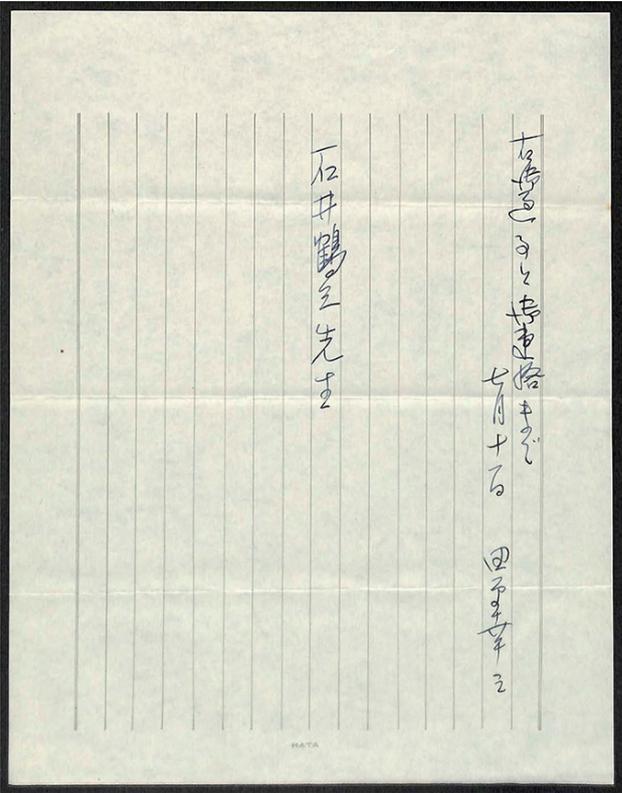
とかく私共学生の若さに圧せられる感
があります、その都度元気を出して若い
ものにまけないように努めています今日、
先生の御言葉梅野さんの精進の姿は
この上なく私を元気つけてくれます、
そして五十才を過ぎてこれからいくらか本

の勉強が出来そうに思われて毎日二三の
学生と共に勉強をいたしております、

八月一日からは私共の学生数名が上田の
彫塑講習会に御世話になりますが、
御手数でもよろしく御願いたします、
いつまでも長引いている梅雨空にて何か
とうつとうしくありますが、先生にはいよいよ
御健祥の程を御祈念いたします
右御返事と御連絡まで

七月十一日 田原幸三

石井鶴三先生



〔馬場51—230〕

謹啓 梅雨の候先生には愈々御健祥の趣なによりと御慶び申し上げます。

扨て今年も例年の如く夏季絵画講習会を左記に依り開催いたしたいと存じます。

先生には誠に御多用のところ恐縮に存じますが是非御来駕御指導の程を御願ひ申し上げます。

本講習会は県の教員免許法単位認定の許可を申請してありますが、この方は一名屋代東高校の島田美成氏と私が受持ち、事務的処理を致したいと存じますので、先生には例年の如く絵画実習指導と、昼休みを利用して美術に関する御話をして頂きたいと存じます。

会員は只今のところ確定はいたしませんか三十名位かと存じます、中には全くの初歩者も交るかと思われませんが、今年は今迄に経験のある者を中心に確かりとした勉強をしたいと念じて居ります。

尚日課については考慮中ではありますが、裸女の部、着衣人物の部、石膏像の部と三部に分ち、午前午後を通して同一ポーズで研究したい予定で居ります。

どうか会期中御都合のよろしき期間御指導

便箋

を賜りたいと存じます、尚御予定御きまり次第御手数ながら御通知頂けますれば幸甚に存じます。

先ずは略儀ながら御願ひ申し上げます。

昭和二十七年六月二十九日 長野美術研究会

田原幸三

石井鶴三先生

記

昭和二十七年年度絵画講習会

一、期日七月二十七日—八月四日（九日間）

午前八時半—午後四時半

二、会場長野市城山小学校

三、講習課目 人物及び石膏像の写生（写生材料は任意）

美術講話

四、人員数 約三十名（小、中、高校教員を主体とする）

生徒、学生も少数参加の予定

封

昭和七年七月五日

長野市箱清水町三三七
長野美術研究会
田原 十子 二

七月廿七日 八月四日
ハ三〇―四三〇 坂山 七

東京 都板橋区
板橋町三の二六二
石井鶴三先生

10.00

（ ）

新しむと存じますので、先生は日例年四如
く後色字習得等と、昼休やを利甲して美術に
関する培殖として頂きたいと存じます。
会員は只今この確定はのたしませんか
三十名位かと存じます、中には全く初學者
も交りかと思われ、今年は今迄に陸
つある者と中心に破かりとした勉強をしい
と念じて居ります。

尚日課口ついは考慮中であり、また、課
女の部、着衣人形部、石青服部と三部は

T.S. 10x20

（ ）

謹啓 梅雨の候先日は愈々梅雨の舞を
よりと晴磨の甲し上ります。

取て今年も例年の如く夏季絵画講習会を左
記に依り開催のたしむと存じます。

先生には誠に多用のところ恐縮に存じま
すか是非来季も指導の程と指導の甲し上り
ます。

本講習会日器の初等免許位認定の許可
を申請してあり、この方は一応居代東
高夜島田美成氏と知か受持し、事務的處理を

T.S. 10x20

()

記

昭和三年夏松色講習会

一期日 七月二十日—八月四日 (九日間)

志願八時半—午後四時半

二会場 上野市城山小正夜

三講習科目 人物及び石膏像の写生 (写生科は任意)

美術補習

四人員数 約三十名 (小・中・高各校教員と生徒と)

主道、学生七、教員七、教員七、生徒七

TS 10x20

()

合テ、午前午後と通して同一テーマで研究し
た。予定どおり長ります。

ところが会期中中場都合のよろしき期内中場
を賜うなと返します。尚中場予定場きまり次
第未定教員加う増進知頂かます水田幸吉の反
ります。

是す時略儀をのり増進の甲、上げます。

昭和七年六月三日 松色美術研究会
田中 吉子 之

石井鶴三先生

TS 10x20

拝啓

此度は御多用中のところ、五日間の長きにわたって御指導を賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

今年は初めから上原、島田両氏の病欠等

あつてどうなるものかと一抹の不安もありましたが、五十名を越す盛会にて、その大部分は連続受講者にて、これ等の者は皆この講習会を

唯一の修行場として年中行事に組み入れている

ようになって来ていることを有難く思います。

心配して居りました、会員の生活の問題も順々によくなりつゝあるものと思われず。それは最近会員の職場に於ける働きが、一応認められつゝあることをみましてもわかるもので有難く存じます。

この点会終了後竹内さんとも語り合つたところであります。

私は健康の問題で特に御心配を御かけいたしましたが一応会期中無事に過し得たと申しますより先生に御会い致しましてから何か目には見えないが、大きな力を得たような気持になり、日が経つにつれて元気が出て来たようにさえ思われ、六日から九日までの当教育学部に於ける認定講習会にも元気で勉強が出来て誠に喜んで居ります。

上田の彫塑講習会には毎年出席出来ない

で残念に思いますが、最終日迄には一度御邪まに上りたく念じて居りましたが、長野で用が出来てつい欠礼いたしました。上田の方々も皆

元気により勉強をされました事と推察いたし居ります。

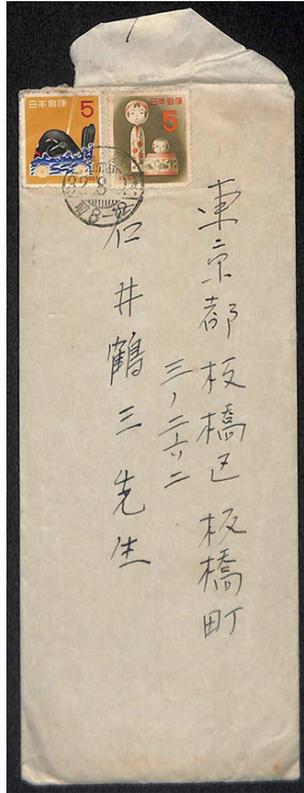
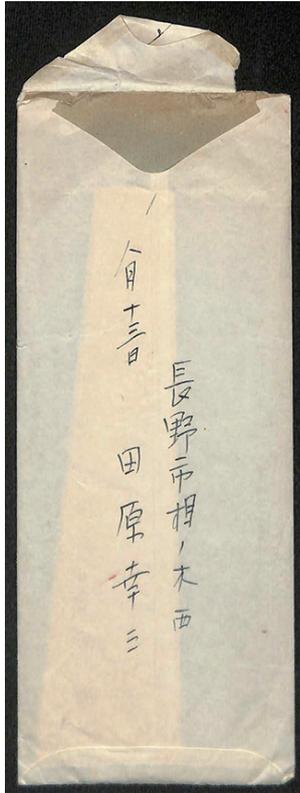
先生の御作を床間に眺めつゝ今回の講習会の事を回想し、例になく先生が御元気にて御話し下さいました事項を深く味い明日からの生活に生かしたく努めて居ります。

今後共々御指導賜りたく御願ひ申し上げます。

右御礼まで。

八月十三日 田原幸三

石井鶴三先生



心配して居りました。念々の生垣の由野も彼らによ
なりつゝおもしろと思われ。それは品近 念々の取
場に移す備えが一応認められつゝあることをサ
まされゆかると有難く存じます。
この点 念々終つ後竹はさことし譲り合ふなと云
ひありやう。
私は健康の由野で特に心配を怖かすいけません
左か一応念期中 無事に過して得ると申しますより
2 先まは 滞会日致しましてからい何か目日欠えま

拝啓
此度は帰る途中のところ、多分向の長きにはな
り帰る道を歸り、誠に有難く厚く指申し申
まう。
今午は初めから上野、島の西の森々まで
あつてどうなるかわかると一汗の不安もありましたか
五十名と越す盛況は、その大部分は連続
空満着にて、これ等の者は皆この満る念を
唯一の修行場として本中行事に担入れらる
よりにまことまこと有難く思ひます。

3

水、大きな力を保ちよるなま持になり、日か焼つ
 口つれ々元気が出て来たように見え、思ふ所、一日から
 九日までの書解る言うに、能くける、認定、満る会には
 元気を、急強か来て、減り七秒で、居ります。
 上田の、彫型、満る会には、毎斗、出、席、出来、る。
 一、残、念、に、思、ひ、ま、す、か、最、終、日、迄、は、一、層、怖、邪、ま
 に、上、り、た、く、念、し、ま、す、ま、し、な、か、長、び、で、用、か、出、来、
 て、つ、い、欠、礼、に、な、し、ま、し、ま、し、た、上、田、の、力、を、い、げ、る
 元、氣、は、強、張、を、せ、ま、し、な、る、と、推、察、ま、い、な、し、居、り、ま、す。

4

先生の情作を、床向に、眺めつ、今回の、満る会、うす
 を、回、想、し、例、は、なく、先、生、か、情、を、ま、よ、く、情、作、し、下
 さい、ま、し、な、る、項、を、深、く、味、一、明、か、ら、の、ま、信、に、ま
 か、し、な、く、お、め、を、居、り、ま、す。
 今後、共、念、の、情、作、を、賜、り、を、情、作、申、上、ま、す。

八月十三日

回りの、ま、す、に

石井 鶴三 先生

〔馬場53—251〕

拝啓 春とは名のみにて当方などはまだ雪がち
ら／＼しています

便箋

先生にはいよいよ御壮健にて制作に御精進の
趣にてなによりと御よろこび申し上げます
さて去る一月二十八日松橋直人氏が病気に
て若槻療養所に入院治療中医薬の
効なく逝去されました、尚二月一日自宅
にて告別式が行われました。まことに御気毒
に存じます

やっていますが何かと会員も淋しく、中川先
生が来て頂けるようなことがもし出来
るようでしたらこの上なく全会員喜
びといたすところではありますが、ご無理でし
ようか、昨年上田で先生から一寸中川先生
の御話がありましたので、私共は右よう
な希望をもっている次第であります
随分無理な御願いを申し上げて申訳
なく存じますがよろしく御願いたします
右御願いまで

つきましては私共長野美術研究会として松橋

石井鶴三先生

さんの遺作展と本会第二回試作展をかねて

昭和三十五年三月一七日 田原幸三

四月二十八日から五月三日まで六日間長野市
城山観光館にて開催することにいたしました。

その際誠に恐縮に存じますが先生の御作

昭和十七年（鍋屋田小にて）黒衣少女（油）一三三年（柳町中にて）
少女（油）

二五年（師範にて）裸女立像（水）二九年（城山にて）婦女倚像（水）
の四点を御借りして特別に出陳させて頂き

たく御願い申し上げます、先生の作は特別陳
列ケースの中に入れて保管を十分にいたしたい
と存じますので何分御願いたします。

尚今年八月一日より五日まで例年の通
り城山小学校にて夏季絵画講習会を開
く予定しておりますが昨年来講師なしで

現在御預りしている作品の目録

昭和一二	柳町	コスチューム	素描
〃	〃	ビーナス	〃
一三	川端	婦女像	油
〃	〃	ラオーコン	素描
一四	鍋屋田	婦女半裸	油
一五	〃	裸女習作	油
一六	〃	裸女半身	油
一七	〃	黒衣少女	油
一八	〃	白衣座女	油
二一	城山	婦人像	水彩
二二	〃	少女	クレオン
二三	柳町	少女	油

昭和三十五年三月十七日現在

二四	城山	少女シュミーズ	水彩
〃	〃	少女	〃
二五	師範	裸女立像	〃
二六	城山	白衣少女	〃
二九	〃	婦女倚像	〃
〃	〃	婦女像	〃

(註)三一、お描きにならなかった。

一九
二〇 〓 講習会なし

先生所持のもの

二七	城山	裸女	油
二七	〃	裸女倚像	油
〃	〃	少女半身	水
二八	〃	裸女倚像	油
三〇	〃	〃	水
三二	〃	〃	油
三三	〃	〃	油

